

第4回新淡路地域ビジョン検討委員会 議事録

1 日 時 令和3年1月12日(火) 18:30～20:10

2 場 所 洲本総合庁舎3階会議室

3 出席者

委員：山本委員長、澤田副委員長、栄井委員、片平委員、堤委員、森委員
木下委員、東田委員、安居委員、原委員、木戸委員、堀内委員 (12名)

県：亀井県民局長、吉野交流渦潮室長、木南ビジョン課長、刃物班長、福栄

4 内 容

(1) 県民局長挨拶

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言が1月8日に東京、神奈川、埼玉、千葉の1都3県に発出された。本県も13日から対象となり、非常に厳しい状態が続いている。島内は阪神間や大阪と比べると比較的落ち着いている状況であるが、散発的に発生しており油断は出来ない状況である。

また、昨年11月25日には淡路市の養鶏場で鳥インフルエンザが発生し、県の職員と自衛隊が2日半かけて約14万5千羽の殺処分を行い、12月25日に収束となった。新型コロナウイルス、鳥インフルエンザと厳しい状況が続くが、全県をあげて取り組んでいく。

本日は第4回目の淡路新地域ビジョン検討委員会であり、これまでは地域課題の現状把握を行ってきたが、これからは骨子に繋がる議論を想定しているので活発な議論をよろしくお願ひしたい。

(2) 事務局から資料説明(省略)

(3) グループディスカッション

【テーマ】分野ごとに「住民として出来ること、心がけること」について議論

【意見(抜粋)】

暮らし・地域づくり・防災

- ・地域のコミュニティで自分の役割を見つける
- ・楽しく学ぶ防災を地域に広めていく
- ・町内会単位での多世代交流を行う
- ・近所づきあいを強化する
- ・地域防災活動に参加する

教育・人づくり

- ・学校行事に積極的に参加する
- ・放課後の子供の活動を地域住民で考える
- ・伝統芸能を学び、伝える
- ・まちぐるみで子供を遊ばせる
- ・他者を尊重することを学ぶ

交通

- ・できる限り公共交通を利用する
- ・公共交通淡路島特区
- ・運転できる人が出来ない人を運ぶ（乗合タクシー）
- ・ウーバーを実現する（白タク）。淡路島ヒッチハイク条例

経済・仕事

- ・若者が都市へ流出しなくてもいいような地域内経済、まちづくりを目指す
- ・人、モノ、仕事を循環させる
- ・農業振興地域を有効活用する
- ・働く姿を見る、見せる
- ・農業（家業）を継承する

観光・交流

- ・デュアルライフから移住につなげる
- ・島独自の資源（歴史、文化）を生かした観光産業を確立する
- ・地域住民と観光客とのつながり方を考える

環境・資源

- ・今ある自然の豊かさを持続するような暮らし方をする
- ・自然環境（山、里、川、海）の価値を知り、価値を損なわない使い方をする
- ・エネルギーを消費することだけではなく使わないことも考える
- ・空き家、耕作放棄地を活用する

【各班のまとめ】

- ・「循環」が大きなキーワードの1つになる（エネルギー、人、仕事、モノ）
- ・観光客と地域をどう緩やかにつなげるか
→半農半〇のようなデュアルライフを目指せば「ええとこどりができる島」になる
- ・「接点」、「つながり」、「交流」がキーワードとなった。
- ・互いの役割や強みも弱みも知った上で繋がることで支え合う地域をつくりたい。
- ・土地を知ること、仕事を知ることが大切。
- ・交通のデジタルを効率的に活用する。